

膣がん・外陰がん（ちつがん・がいいんがん）

膣がん・外陰がんについて

女性器に生じる希少がんとして、膣がんや外陰がんがあります。ともに、子宮頸がんと同様にヒトパピローマウイルス（HPV）への感染が関わっているとされます。

膣がん（ちつがん）

非浸潤性の膣上皮内腫瘍（VAIN）、浸潤能のある扁平上皮がんに分けられます。治療選択には、膣の中でも発生部位（上部 1/3、中央、下部 1/3）が重要になります。

外陰がん（がいいんがん）

女性の外陰部（大陰唇、小陰唇、陰核など）に発生する悪性腫瘍です。非浸潤性の外陰上皮内腫瘍（VIN）と、浸潤を示す扁平上皮がんに分けられます。進行すると、太ももの付け根あたりにあるリンパ節へ転移が生じる場合があります。

症状について

膣がんの場合、子宮頸がんと同様に、不正性器出血やおりもの異常がみられることが多いです。外陰がんの場合、外陰部の腫瘤、かゆみ、痛みなどの症状が生じます。しかし、初期の段階では症状が明らかでない場合もありますので、子宮頸がん検診等で偶然見つかる場合もあります。

診断について

膣内や外陰部にできた腫瘍を生検し、病理学的にがん細胞があることで診断します。そして、CT 検査や MRI 検査で病変の広がり进行评估し、治療方法を決定します。

治療について

膣がんに対しては、手術療法、放射線治療、抗がん剤治療を行います。膣の上部 1/3 のみにがん細胞を認める場合は、手術療法として、広汎子宮全摘術（こうはんしきゅうぜんてきじゅつ）と骨盤リンパ節郭清術が行われます。また、膣の中央や下部 1/3 にも進展する場合は、広汎外陰切除術（こうはんがいんせつじょじゅつ）と鼠径リンパ節郭清、骨盤除臓術（こつばんじょぞうじゅつ）も考慮されます。手術不能な場合は、患者さんの状態に応じて、放射線治療、抗がん剤治療、同時放射線化学療法が行われます。

外陰がんに対しては、手術療法が第一選択となります。腫瘍の大きさと広がりに応じて、局所切除術、単純外陰切除術、広汎外陰切除術および鼠径リンパ節郭清が行われます。そして、術後に放射線治療も行われます。また、手術不能例に対しては、放射線治療、抗がん剤治療、同時放射線化学療法が行われます。

執筆者

- 氏名： 吉田 康将（よしだ こうすけ）
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 産婦人科